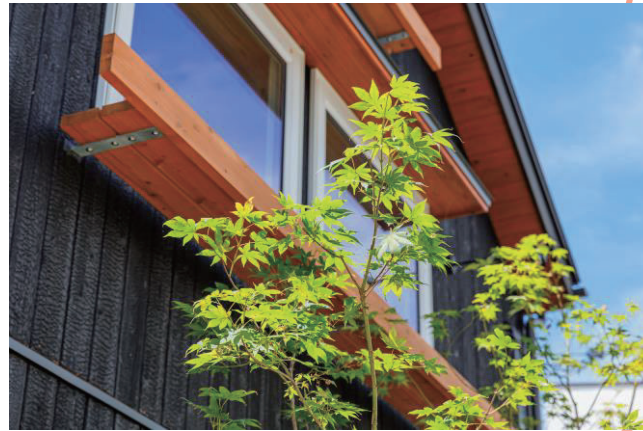


繋がる家



■ 設計趣旨

敷地がとがっている・・・マイナスな特性をプラスに活かす。変形地ならではの、間を多用途に活用し、変形地にも関わらず歪な敷地を感じさせない住まいを表現した。人や家族、自然や緑、内外空間や暮らし等、広い範囲で様々な繋がりを見出し街中でありながら人目を気にせず豊かな暮らしが体感できる。また梁や柱材に兵庫県産の木材を使用。木材の持つ特性を活かして適材適所に配置。節がある材も、あえて化粧材としてつたりとも同じものがない自然素材の醍醐味を木の持つ味として意匠にエッセンスを加える。中には色濃い節もあるが、下地材等に利用。見えない部分でも地域との繋がりを意識。

■ 主な外装仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板立上げ葺き
外壁：焼き杉板仕上げ

■ 主な内装仕上げ

床：杉フローリング / クリア
壁：1290ホルマリン塗・珪合板目隠し貼り
天井：JW 再現し・針葉樹合板

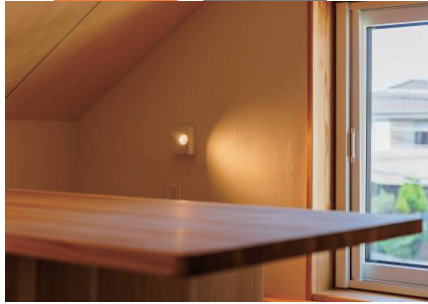


■ 建築概要

敷地面積：129.40㎡
建築面積：66.34㎡
1階床面積：58.77㎡
2階床面積：36.00㎡
D1床面積：16.00㎡
離れ床面積：7.5㎡
延床面積：102.27㎡



繋がる家



■ 外と繋がる

窓の大きな役割は光と風を取り込むこと。そして最も大切なことは外との繋がりを
作る。窓は大きく、部屋からの視線の先はなるべく外へ、さらにその奥へと
抜ける位置に窓を配置することで外と繋がり部屋の広がりを感じることができる



■ 家族と繋がる

6m角のベースを4ブロックに分けるスペースは自ずと3mの距離となる。この距離こそが繋がる
ポイント。リビング・ダイニング・キッチンそれぞれ3mの距離がコミュニケーションをとる
うえで居心地の良い最適な距離。家族とのコミュニケーションをとるには離れすぎず近すぎず...
3mがほどよい距離

■ 空間で繋がる

6m角のベースと下屋で構成するお母屋
と遊び心が詰まった離れ。お母屋と離れ
を配置するとその間には自ずと空間が作
り出される。2つのエリアを繋ぐ空間
(間)をデッキスペースとすることで
新たな居場所が姿を現す。離れとお母屋
の隙間から続くデッキスペースはわか
わくしない訳がない。また変形地ならで
はの水平垂直と斜めが交差しあうスペース
は収納や坪庭として活用、間で繋がる。



■ 自然と繋がる

大きな窓の前には植栽を配置することで
外からの視線と内からの眺めを調和させ
る。通りがかりの人の視線は緑豊かな植
栽へ、内からの視線は緑を通じて四季折
々の表情を楽しみ自然と繋がる。また室
内は木材や漆喰和紙などの自然素材で仕
上げ室内からも素材の自然と繋がる

